

# モリマーグループ ウォータージェット切断システムなど 中国で新規ビジネス育成

【上海＝池田旭郎】モリマーグループの中国・上海現地法人である森修国際貿易(上海)有限公司は、収益増大の一環として新規商材の育成に取り組んでいる。とくに力を入れているのが静電容量方式(OGS)の中核部材となる強化ガラスを超高水圧を利用して加工するウォータージェット切断システムと、中国で市場規模が広がりつつある壁紙、ユニットバスの3点。現在主力の電子材料をはじめとした既存ビジネスをさらに伸ばしていくとともに、収益拡大につながる新しい柱の構築にも努めている。

モリマーグループは日本モリマーをグループの本経営統括会社に、化学専門商社のモリマーエスエスピーや、シート・モールドディング・コンパウンド(SMC)成形ならびにバルク・モールドディング・コンパウンド(BMC)成形技術を保有するメーカーなどで構成されている。

同グループは2004年に中国・上海に販売拠点、森修国際貿易(上海)有限公司を設立。上海現法は携帯電話に搭載されるエレクトレット・コンデンサー・マイクロホン(ECM)用部材といった電子材料、繊維強化プラスチック(FRP)、高機能フィルムを取扱商材の3本柱に発展を遂げてきた。今後も成長し続けたいくため主力商材を伸ばさせていくことに加え、新規ビジネスの芽を育んでいく。

期待を寄せる1つが、ウォータージェット切断システム。スマートフォンの液晶パネルやタブレット端末、液晶一体型パソコン、液晶モニターのタッチパネルに採用されている静電容量方式は、化学処理によって強化されたガラスに直接タッチセンサーを形成できるOGSの実用化が進展しつつある。この技術により、タッチセンサーのためのガラスやフィルムが不要となることから、製品のさらなる軽量化、薄型化、コストダウンを図ることが可能となる。ただ、製造工程において積層した強化ガラスを切断するのが難しいという課題を抱えている。

この問題を解消できるのがウォータージェット切断システム。同社が中国で販売する日本メーカー製機器は十数枚の強化ガラスを重ねた状態でも切断することが可能。昨年からは提案を始めており、ユーザーの評価は高いという。

壁紙も拡販していく。昨秋、モリマーエスピーが壁紙メーカーのデコリアを子会社化するなど同分野の強化を進めている。中国では壁紙市場が拡張していることから、日本で実績のあるデコリアの商材を中国市場に投入し、シェアを高めたい。

ユニットバスの取り扱いはも重点を置いていく。モリマーグループが得意とするSMC成形技術を中国の工場に供与したり、グループで中国浙江省でBMC成形による洗面カウンターなどを手掛ける杭州保利泰克塑化有限公司との連携を二層深化させたりしながら、高品質なユニットバスを中国で展開していく。まずは低価格帯の公共住宅である保障性住宅での採用を目指す方針で、実績を積み重ね高級マンション・ホテルへも営業活動を任せていく。